



ファッションの
ちょっと・ウンチク

ボタンの色々-3

衣類には、本体である生地部分の他に、ビーズ、ラメ、ファスナー、トリミングなど色々なアクセサリや部材が使われています。ボタンについては、ほとんどの衣類に使用されています。ボタンには多様な種類の素材が使われています。

●エポキシ流し込みボタン

エポキシ樹脂は、強力接着剤に使用されているもので、ABS樹脂や金属と組み合わせ、デザイン性の高いボタンとして使用されています。油性の素材で、染色の後処理が悪いと、ドライクリーニングやプレス等で色落ちしたり、移染したりすることがあります。赤系の耐光性が弱い傾向があります。



●アクリルボタン

透明性が高いことから、ガラス調のデザインやパール箔を使った真珠調のパールボタンとして使われています。表面が曇ったり、損傷したりすることがありますので注意が必要です。



●革ボタン

シックなツイードジャケットやコートに使用されている天然皮革でくるんだボタン。

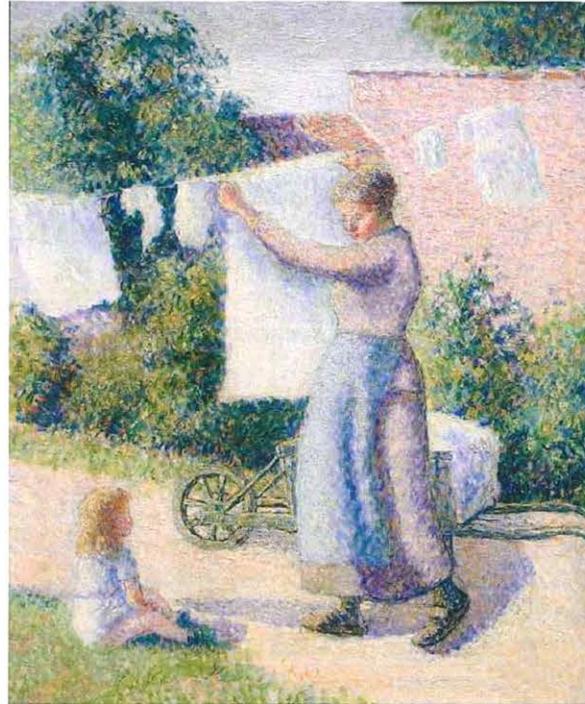


革素材の染色は、一般的な繊維などと比べると高温染色ができないことから、色泣きしやすいという性質があります。ページや生成り調など淡色の生地につけられている場合は、必ず取り外して洗う必要があります。また長時間の漬け置き洗いはできません。

(資料提供：株式会社アイリス)

絵画の中の洗濯風景

洗濯物を干す女性



カミーユ・ピサロ (Camille Pissarro 1880年)

19世紀末、ヨーロッパ絵画に革新をもたらした印象派の代表的な画家であるカミーユ・ピサロが洗濯物を干している風景を、点描法という当時としては斬新な技法を用いて描いた作品です。

印象派は、光と色彩、そして「一瞬の印象」を重視した革新的な芸術運動です。伝統に反発し、戸外制作や色彩を点で描く点描法などの技法を用いて、日常の光景や都市生活を明るい色彩で表現し、近代絵画の扉を開きました。細部よりも、対象を見た瞬間の光や空気感、感情(印象)を捉えることを重視し、明るい色彩や、筆のタッチを多用し、視覚的な混色効果を狙う表現となっています。この作品は、印象派の傾向を象徴的に表した作品であるといえます。

HD NEWS 2026 年1月 25 日隔月発行 第22 巻第1号通巻125号

暮らし応援ニュースレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.125



●絵画の中の洗濯風景:

洗濯物を干す女

●ファッションのちょっと・ウンチク: ボタンの色々-3

●繊維と服飾の物語:

自然の温もりファッション素材-羊毛

●なるほど納得!衣生活の知恵:

起毛製品を着ている時は暖房機器にご注意!!

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ

繊維と服飾の物語



自然の温もりファッション素材 羊毛繊維の基礎知識

1. 綿羊の起源

綿羊の始祖種は、ムフロンという中近東に棲息するウシ科ヒツジ属動物が家畜化されたものとされています。人類が数千年の時を費やして交配改良を重ねた結果、現在の綿羊の姿になりました。



多摩動物公園のムフロン



メリノ種の羊の親子

羊の仲間は約3000種といわれています。羊は生後1～2年になると年に1回、春に毛を刈り取られます。

刈り取った羊の形をした原毛をフリースといいます。ポリエステル起毛素材をフリースと言っていますが本来はこの羊毛のことです。1頭から刈り取られる量はだいたい大人のスーツ1着分に当たります。

2. 羊毛の特徴

●繊維が縮れている(クリンプ)

ウール繊維は、自然に縮れており、これをクリンプといいます。この繊維で規則的な縮れによって、ふんわりとした空気の高層をつくり、保温性の高い温もりのある生地になります。



原毛のクリンプの状態

このクリンプは、羊毛繊維の内部構造が、異なった性質の二重構造になっていることで起こるとされています。そして、このクリンプは湿度によって伸び縮みする現象を引き起こします。ウール100%の背広に霧

吹きをしてハンガーにかけておくだけで、小ジワがとれるのもクリンプの弾力性と水分によって伸び縮みする性質によるものです。

●繊維表面がウロコ状(スケール)になっている

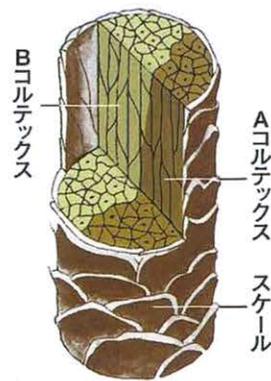
ウール繊維の表面は、魚のウロコのような形状(スケール、エピキューティクル)をしていて、規則正しく毛根から毛先の方向に並んでいます。

スケールの表面は油脂分を含んでいて水をはじく性質があるので、ウール製品は天然の撥水性があり、水滴を落としても濡れにくいということになります。

また、表面の薄い膜の下にある層は水を吸収する性質をもっています。つまりスケールは、吸湿性とは逆水性という異なる性質を備えているのです。このスケールは湿度の状況によって開いたり、閉じたりして、繊維内部の湿度調整をしてくれます。このことから、ウール製品は吸湿発散性があり、快適な着心地になるというわけです。

しかし、セーターのような毛製品を水の中に入れて動かすと、スケールが松笠のように開き、繊維同士が互いに引っかかるようになります。揉み続けると、それぞれの繊維は、一方向にしか進めないことから、しまいには、硬くなるまで縮みます。これをフェルト化収縮といいます。

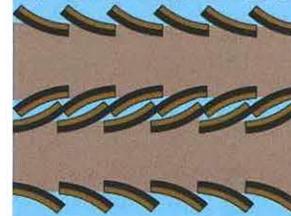
フェルトの帽子とかカーペットというものがあります。つまり、水洗いによって十分に毛製品の汚れを落とそうとして強い機械力を加えれば、原理的には必ず縮むという現象が起きるといえるのです。



羊毛繊維の構造



水中でスケールが開いてからまる



ウール生地が縮む原理



なるほど
納得!

衣生活の知恵

起毛製品を着ている時は
暖房機器にご注意!!

ゴージャスなイメージのファーですが、それなりの配慮が必要です。

毛皮やフェイクファーなどの起毛された繊維は熱に弱いので注意してください。タバコやライターなどの火などは、瞬時に毛先を焦がしてしまいます。また、ストーブに近づいたり接触したりすると、縮れてしまいます。



濡れてしまったら、よく振って水滴を落とし、乾いたタオルで拭いてください。絶対にドライヤーやストーブで乾かそうとしないでください。日陰で自然乾燥させましょう。特に毛皮の場合、加熱するとタンパク質が変質して硬くなってしまい元に戻すことができません。

ジュースやコーヒー、お酒などがついてしまったら、あわててオシボリで拭かないでください。オシボリには消毒のための塩素成分が含まれており、毛皮などの繊維を傷めてしまいます。ティッシュペーパーで液体を吸い取り、よく絞った濡れたタオルなどで、ポンポンと軽くたたいて除去しましょう。そして、一刻も早くクリーニング店にお持ちください。